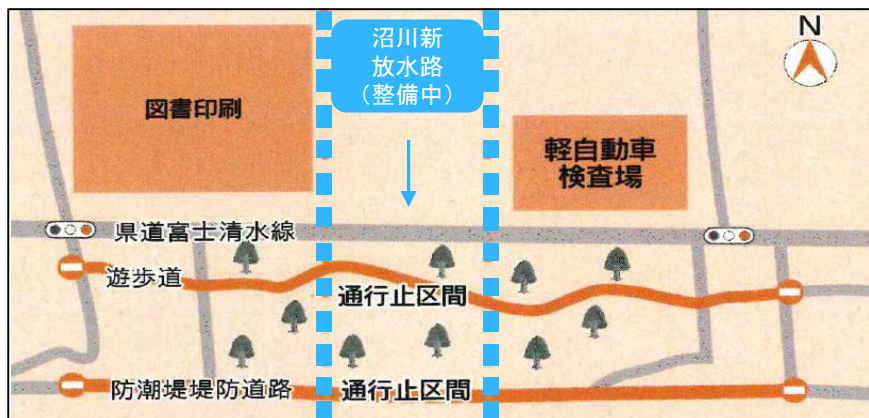


# TOPICS：通行止めに伴う迂回ルートのご案内

海岸部の工事が5月から本格的に始まりました。工事用の進入路を整備したのち、防潮堤の代わりとなる二重締切り（矢板を二重で打ち込み、その間に土砂を投入）工事を行い、その後、本格的に防潮堤の開削工事に入っていきます。

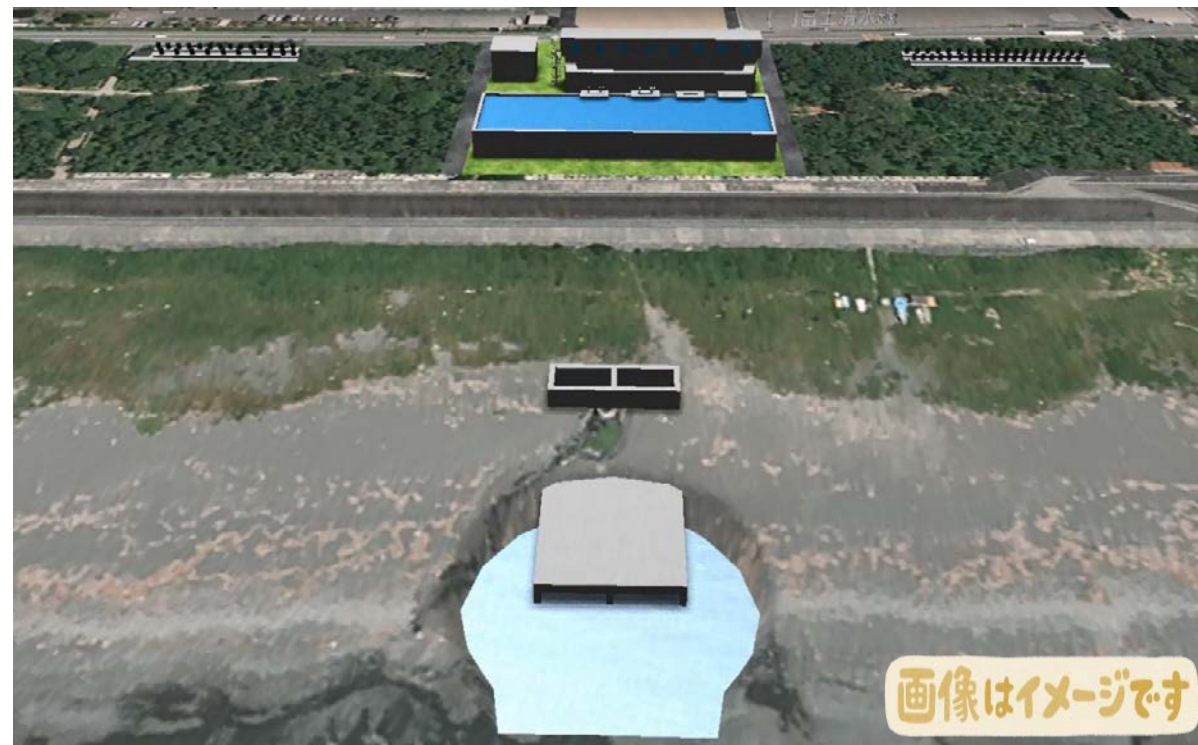
また、保安林と海岸部では、本格的に工事が始まってきています。このため、遊歩道や、防潮堤が通行止めとなります。

ご迷惑をお掛けしますが、歩行者や自転車は県道富士清水線へ、迂回をお願いいたします。



# なますくん通信6

沼津土木事務所  
沼川新放水路整備課  
R2.6.3 発行



沼川新放水路最下流部

## チーム沼川 『今年はこのメンバーで頑張ります！』

昨年は、台風15号や台風19号の襲来により、県内各地で平成26年以来の大きな浸水被害が発生しました。特に台風19号は、狩野川台風の再来と呼ばれ、沼津土木事務所管内でも多くの市町で被害を受けましたが、狩野川放水路の整備により、幸い尊い命は奪われませんでした。このように、抜本的な放水路の整備は、地球温暖化に伴うゲリラ豪雨の増加や、台風の大規模化への対策として、必要不可欠なものであります。

そのような中、今年は、今年のメンバーから1名増員し、計6名のガッツあるメンバーで、1日でも早く沼川新放水路が供用開始されるよう頑張ってお参ります。今後も、沼川流域の治水安全度向上に向けて全力で取り組んで参りますが、事業には長い期間を要することから地域の皆様のご理解とご協力を、引き続きよろしくお願いいたします。

左から  
宮島主任  
長谷川班長  
保竹主査  
薩川主任  
岡村課長  
山本主査



### なますくん通信6号のまとめ

今回は、令和2年度の沼川新放水路事業における主要事業等を紹介いたしました。併せて、チーム沼川のメンバーを紹介いたしました。

### なますくん通信とは

この広報誌「なますくん通信」では、沼川新放水路整備事業を中心に、沼川流域における治水対策事業について分かりやすく説明していくとともに、これからの川づくりの最新情報をお知らせしていきます。

### 目次

令和2年度の沼川新放水路事業について

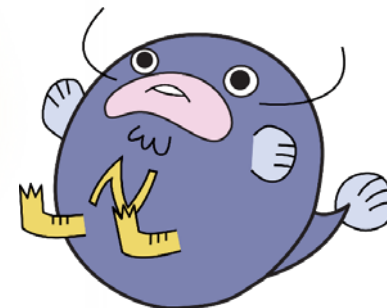
NEWS①：沼川新放水路の函体工に着手します

NEWS②：県道東柏原沼津線迂回路工

NEWS③：沼川新放水上流部の盛土工

TOPICS：通行止めに伴う迂回ルートのご案内

チーム沼川「今年はこのメンバーで頑張ります！」



沼津土木事務所沼川新放水路整備課  
Tel：055-920-2129



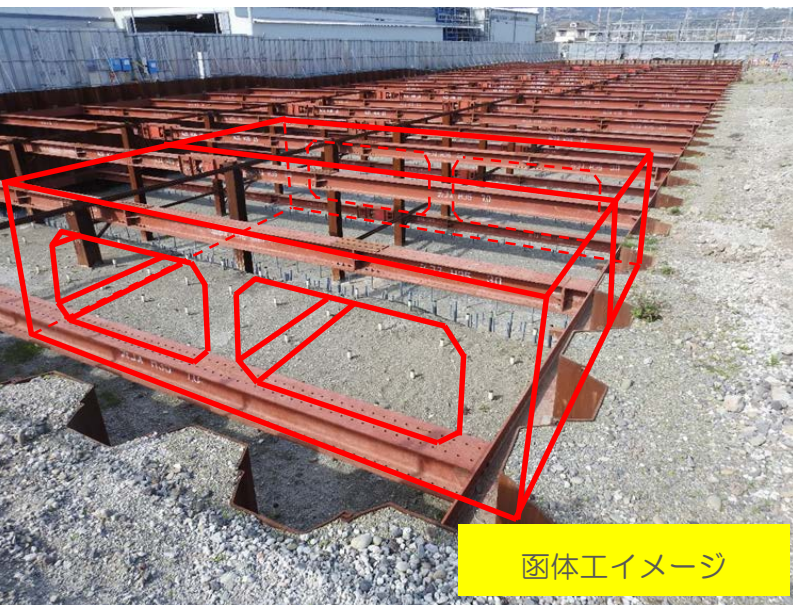
# 令和2年度の沼川新放水路事業について

沼川新放水路整備事業は、昨年度から大幅に予算が増額され、防潮堤の国土交通省工事（令和4年度まで）及び原踏切付近のJR東海工事（令和9年度まで）に着手しました。  
 この他、令和2年度は22億円の予算を確保し、旧凸版印刷跡地の水路工事、JR東海道本線～沼川までの工事用道路工事、国1バイパス～高橋川分流部までの盛土工事など、全区間で出来るところから工事を行うとともに用地買収及び設計も進め、1日でも早い新放水路の供用開始を目指していきます。



## NEWS①：沼川新放水路の<sup>かんたい</sup>函体工に着手します

沼川新放水路の旧凸版印刷跡地では、平成29年7月の着工式から3年を経て、いよいよ水路となる函体工事に着手します。  
 今年度は、内空断面（幅10m\*高さ4.5m\*長さ20m）の函体を2函設置することにより、40mの区間が完成します。  
 これまで仮設工事ばかりでしたが、放水路としての構造物が実際に出来上がることで、この事業や完成形が、イメージできます。今後も引き続き、函体の安定を確認しながら、整備を進めて参ります。



函体イメージ



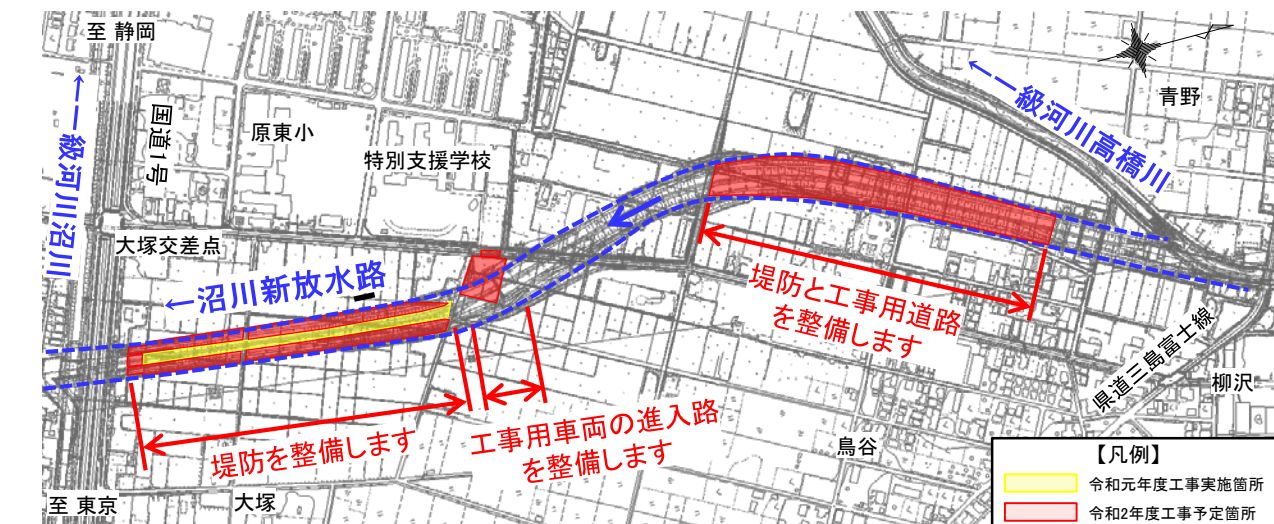
# NEWS②：県道東柏原沼津線迂回路工



令和元年度に実施した、東柏原沼津線の迂回路工事では一番南の調整池に直径1.5mのパイプを設置し、土砂で埋め立てを行いました。  
 設置したパイプは、放水路の事業用地で、有効に活用している、調整池を埋め立ててしまうことから、大雨が降った際、（普）東部前川から越流する水を引き続き管路内に貯える役割をします。また、他の調整池を更に掘削することで、貯水容量を補っています。  
 東柏原沼津線の迂回路設置工事はJRが設置する仮設の踏切設置工事と調整し、令和2年度も引き続き工事を行い、迂回路と仮設踏切の供用開始は令和3年の2月頃を予定しています。  
 引き続き工事にご協力を、よろしくお願いいたします。

## NEWS③：沼川新放水路上流部の盛土工

令和元年度より、新放水路の堤防を盛土するために必要な、仮設の工事用道路の整備に着手しました。令和2年度は、引き続き工事用道路を整備するとともに、この工事用道路を使って本格的な堤防の盛土工事に着手します。  
 また、この地域の特徴である軟弱地盤への対策として、盛土载荷重工法（プレロード）を採用します。盛土工事にあたっては、一気に盛土するのではなく、広く薄く盛土を行い、その後の沈下状況を観測しつつ再度盛土を行うといったように、周辺地盤への変状を極力発生させないなど、時間をかけて堤防を整備していきます。



【凡例】  
 令和元年度工事実施箇所  
 令和2年度工事予定箇所